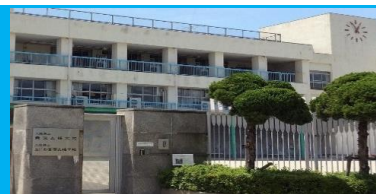


府立なにわ高等支援学校



テーマ：自己肯定感を高め、物事への向き合い方に変化を与える指導・支援とは

概要

「自己選択・自己決定を促し、多様な評価を経て自己理解の促進を」

なにわ高等支援学校では、パッケージ研修として3年目の取組みとなります。ベースとなるテーマは自己肯定感の向上であり、「自己評価」「友人からの評価」「教員からの評価」を各年度の柱として研究授業・研究協議を進めてきました。今年度は集大成として、「自己選択・自己決定を促し、多様な評価を経て、自己理解の促進を図ることをねらいとし、「自己決定を促す授業づくり」と「NACP（なにわアセスメント for キャリアプランニング）の分析」の2つを検証しました。

実施

スケジュール

Research

8月10日（金）

担当者、教頭、担当指導主事で、今後の進め方について打ち合わせ

Vision

11月12日（月）

全体会を開催 テーマは「自己主張・自己決定を促す授業から自己肯定感の向上、自己理解の促進を図る」

Plan

11月19日（月）

事前に授業を見て、指導案を検討

Do

12月7日（金）

研究授業・研究協議

Check & Act

1月上旬

アンケート集約

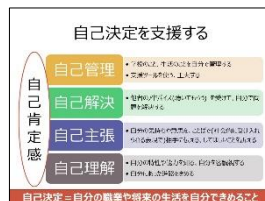
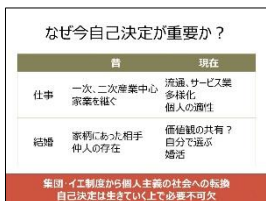
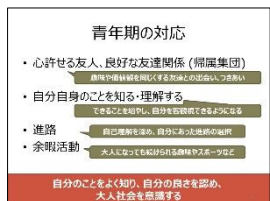
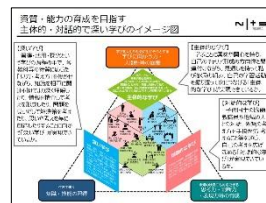
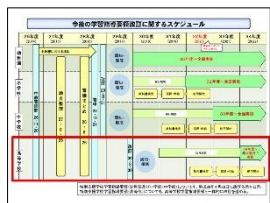
全体会

11月12日（月）

「自己主張・自己決定を促す授業から、自己肯定感、自己理解の促進を図る

～能動的な進路選択の実現をめざして～

講師：教育センター支援教育推進室指導主事





なぜ「自己決定が必要か」を、青年心理学的側面からとらえなおし、授業の中で、自己肯定感を高めるためにどのようなかわりができるか、また、自己決定のために、意欲を引き出し、自己主張の場面を設定どのように設定するかなどを、グループワークを通じて考えました。(資料は抜粋)

研究授業

高等支援 2年「社会科（日本史）」

学年・教科：「日本の中世社会」

単元名：

～武家社会の形成と転換～

研究協議の
ポイント

「自己主張を促し、自己肯定感を育む授業づくり」

授業の中で生徒が自己主張・自己決定する場面の位置づけや、自己主張・自己決定を促す指導・支援の工夫について協議しました。



成果

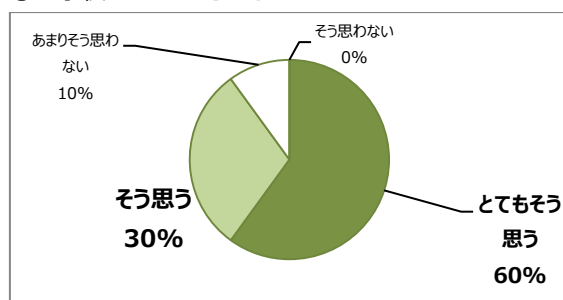
研究授業では、自己主張を促す場面として、資料を見て考えたことをペアで話し合い、2人の意見として発表する場面が設定されていました。1人では気づかなかったことでも意見交換することで新たな発見があるようにされており、相手の意見の良さを見つけ、それを伝えることで他者理解や自己肯定感の向上につながるよう工夫されていました。生徒が自己主張することに苦手意識を持たないよう、選択肢を選ぶ問題からはじまり、自分の意見を言うことに慣れてきたところで、考えたことを記述式で答える問題に取り組むよう設定されており、活発な意見交換が見られました。

取組みを通して、社会科等のどうしても説明が多くなりがちな授業においても、生徒が自己主張、自己決定できる場面をいくつか設定することで、自分を受け止め、自分の可能性について気づくようにする授業の在り方についての理解を深めることができました。

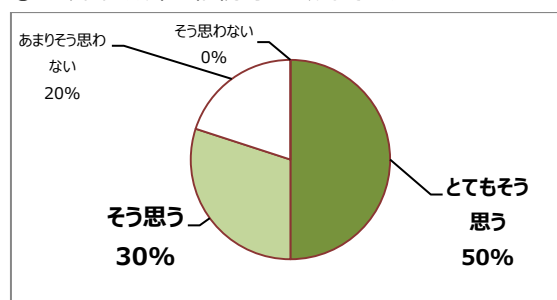
アンケート結

果

① 学校のニーズにできていた



② 今回の成果を継続的に生かしていく



(感想より)

- ・ 授業の中でどのように工夫していったらよいかを、たくさんの先生方や指導主事にアドバイスしていただき取り入れることで少しずつ改善していくことができました。
- ・ 支援学校においては、授業づくりや校内研究体制づくりが重要な項目であるが、喫緊の課題は組織を盛り上げていく若手や経験の浅い教職員をどのように育成するかであると考えます。
- ・ これまで、職業に関する専門教科において、生徒の自己肯定感が向上するような内容で取り組んでいましたが、今回は社会科という一般教科での取り組みができたことで、教職員一人一人の教科の授業においても、職業教育と同様に生徒に自己肯定感の向上に向けた授業内容が展開できる可能性を見いだせたと感じています。また、ワークショップなどで、日頃感じている生徒観や授業観についても意見交換ができ、有意義な研修となりました。
- ・ 初任の教員ではなく、ベテランの授業でやってみてもよいのではないかと思います。

